

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
18UHSA1006	基礎英語 II	1	1. リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 2. 語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	前期に開講した「基礎英語 I」で身につけた、基礎的な英語力を応用し、さまざまな状況で、英語によるコミュニケーションができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○									
18UHSA2007	Oral Communication I	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○								○	
18UHSA2008	Oral Communication II	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	前期に開講した「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面での基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○								○	
18UHSA2009	健康科学 I	2	高齢化社会を迎え健康への志向が高まっている現在、健康の保持増進に貢献できる質の高いスペシャリストを育成することを目的とする。	本科目は健康への幅広い知識の修得を目指す「健康科学連携教育科目」であり、健康に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。	◎	○					○	○								○
18UHSA2010	スポーツ心理学 I	2	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント（メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法）、指導者のメンタルマネジメント等の心理面における基礎理論を理解する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	獲得した知識・技能・指導法を総合的に活用しながら、将来のスポーツ指導にそれらを適用し、実践現場における問題解決能力を身につけること、また、心理的スキル向上を図るためには、必須である「動機づけの方法」「性格特性や個人差などに応じた指導法」「メンタルマネジメント」を理解し、スポーツ現場で応用できる資質を養うことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○					○	○	○							○
18UHSA3101	スポーツ栄養学 I	3	アスリートとして体力の維持・競技成績の向上のために、さらに将来の健康づくりの指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するために、スポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的な知識を身につけ、さらに、選手において特別に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎	○					○	○	○							○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA1011	運動生理学 I	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的变化をもたらすか学習する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。保健体育教授者、あるいはスポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を主体的に考え、取り組むことができる専門的知識を修得することを目標とする。	◎	○				○	○	○			○
18UHSA1012	スポーツ医学	1	内科的分野では、運動開始前および運動中の自覚症状、他覚徴候から運動中止を判定する方法に関し理解する。スポーツと内科的障害、疾患を理解する。特殊環境下の運動、熱中症、高山病、低体温症、凍傷、潜水による障害、日光障害など実習に役立つことを学ぶ。学校、各種スポーツ活動時、教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することを目的とする。 外科的分野では、健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身につける。	内科的分野では、運動中に起こりやすい、呼吸・循環器、熱中症、さらに生活習慣病などを理解し、子供から大人まで運動指導が可能になる。スキー実習（低体温症など）、キャンプ実習（高山病など）、マリンスポーツ実習（潜水病など）で事故の発生を予防する。また貧血、オーバートレーニングを理解し選手、指導者として活躍できるようになる。外科的分野では、スポーツ外傷、障害を理解し医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもってコミュニケーションができることを目標とする。	◎	○				○	○	○			○
18UHSA2013	スポーツ運動学	2	スポーツ指導現場に必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○	○			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA1201	体育原理	1	本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようになることを目指す。具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。 保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の習得 社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得 自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成 「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心を持つ姿勢」の涵養 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○				○	◎	○			○
18UHSA1014	運動器の解剖と機能Ⅰ	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○	○	○		○	
18UHSA1601	運動器の解剖と機能Ⅱ	1	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考えていく上で、まず第一にその対象であるヒトの「構造が正常である。」「機能が正常である。」とはどういうことかを知る。	医師、コーチ、指導者、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話ができることを目標とする。	◎	○				○	○	○		○	
18UHSA1602	スポーツ傷害の基礎知識Ⅰ	1	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野の基礎知識を身につける。	体の組織学的、分子学的基本構造を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○	○	○		○	
18UHSA2603	スポーツ傷害の基礎知識Ⅱ	2	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野の基礎知識を身につける。	運動中に起こりやすい、運動器（骨、軟骨、筋肉、神経、靭帯、腱など）の傷害を理解するためにその基礎となる組織、遺伝などを理解し、子供から大人まで運動指導が可能になること、医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話ができることを目標とする。	◎	○				○	○	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
18UHSA2015	スポーツトレーニングの科学I	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学的研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体の適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実際を分析・評価する能力を身につけ、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。	◎	○				○	○	○		○		
18UHSA1604	アスレティックトレーニング論	1	スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーは何を担っているのか？その役割や資格、関連職および問題点について学ぶ。トレーナーを目指す学生は、より具体的なイメージをもって今後の学習活動に取り組むきっかけとする。競技活動をしている学生は、トレーナーとどのような関係を築くことが自身の活動に有益なのか、考えることができるようにする。さらに、トレーナーと連携する職種を志している学生は、共通の言語を持って協働することの大切さを理解することを目的とする。	アスレティックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学び、実践する際に応用できる。コーチ、スポーツドクターの役割とアスレティックトレーナーとの連携について理解し、様々な状況においてとるべき行動について正しく判断できるようになる。アスリートに対してよりよいサポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。進路について考えることができる。	◎	○				○	○	○		○	○	
18UHSA1605	アスレティックトレーニングI	1	数多く存在する様々なトレーニングの中から、目的に応じた適切なトレーニングを選択し実施することが、スポーツにおける競技力向上や健康の維持・増進のカギを握っている。スポーツ現場で行われている各種のトレーニングについて、理論と実際を学ぶとともに、安全管理の意識を高めることを目的とする。	様々な基本的トレーニングを安全に配慮しながら、正しく実践することができ、正しい方法を指導することができるようになる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		○	
18UHSA1401	コンディショニング論	1	スポーツ選手が自身の能力を発揮するためのコンディションの把握とその管理について理解する。国内・外の遠征での注意点に関して学ぶ。トップアスリートにみられる病的現象について理解し、スポーツ選手のコンディショニングづくりの知識・情報を身につけることを目的とする。	スポーツ医学においてコンディショニングの考え方、評価法、実用的方法、国内（海外も）遠征などに関する知識を得て関係する情報も自ら得られるようになる。スポーツによる内科的障害（オーバートレーニング症候群を含む）とその対策を学び選手自身やコーチの立場で考えられるようになる。スポーツ関係者として知っておくべきドーピングコントロールに関しても学ぶ。スポーツ選手が自身の能力を発揮するためのコンディションの把握とその管理について理解して役立てる。国内・外の遠征での注意点に関して学ぶ。トップアスリートにみられる病的現象について理解し、スポーツ選手のコンディショニングづくりの知識・情報を身につける。	◎	○	○		○	○	○			○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA1016	救急処置演習	1	日常生活に比べてスポーツ活動時に傷病発生のリスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	救急処置、応急処置、に必要な知識の習得をする。レポートにて知識の整理を行う。実習にて心肺蘇生法、止血、固定、等を行う。実習試験にて知識の習得の確認を行う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA2017	バイオメカニクス	2	バイオメカニクス（生体力学）の学修によって、身体運動の運動成果（パフォーマンス）がおおよそ物理学、解剖学および生理学が示す原理に従っていることを理解することを目的とする。	スポーツにおけるパフォーマンスを向上させるために、力学的にどのような要因を改善することが必要なのか、思考できることを目標とする。受講生の運動・スポーツの「動きをみる目」が変わり、スポーツ指導の現場で活かしていることを期待する。	◎	○			○	○	○			○	
18UHSA2202	学校保健	2	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。	学生は教員の立場で現代の子供たちを取り巻く健康問題に目を向け、学校における保健活動、すなわち「保健教育」と「保健管理」の内容を理解しなければならない。また、「保健教育」では、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子供たちの安全を確保すべきかも理解しなければならない。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○	○			○	
18UHSA3203	公衆衛生学	3	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基本的な力を養うこと。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○	○			○	
18UHSA3102	発育発達・老化論	3	科目の目的は、乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につけさせることである。	学生には、この授業を通じて子供が誕生し、老いていくまでのからだの発育発達と老化についての理解を深めてもらいたい。そして発育期の運動・スポーツの関わりが、子供たちの健康・体力にどのように影響するかについて、科学的な根拠をもって説明できる能力を身につける。	○	◎	○		○	○	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA2301	スポーツ指導論	2	近年日本では多くのスポーツ種目が若者男女問わず盛んに行われるようになった。見るスポーツから実践し楽しむスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にもまた、個人の健康の維持・増進に欠かさない。そのスポーツ指導について正しい知識と効果的な指導法を理解することを主な目的とする。	スポーツ指導者に求められる役割を理解する。 <知識・理解> スポーツ指導における世代間伝達 スポーツ指導者の役割 <技能> コミュニケーションスキル モチベーションコントロール <態度・指向性> Players First スポーツ指導者の倫理 自己研鑽 <総合的な学習経験と創造的思考力> 学習した一般的内容を、自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力	○	○				◎	○	○		○	
18UHSA4103	スポーツ社会学	4	本講義は次の目的のために開講する。 現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。 知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史の変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究すること。	○	○				○	◎	○		○	
18UHSA2302	スポーツ行政・法規	2	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状等について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。	科目修得時には、「日本のスポーツ行政組織」「スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理」などについて、論理的説明が可能となることを目標とする。	○	◎				○	○	○	○	○	
18UHSA2018	スポーツ経営管理学	2	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。将来、スポーツ指導者という立場でその多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの考え方をもてるようにすることがねらいである。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探究する。	○	○				○	◎	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA2606	コンディショニング指導論	2	スポーツにおけるコンディショニングの必要性や重要性を理解し、スポーツ現場において (1) 競技力向上 (2) スポーツ外傷・障害予防 (3) 健康増進を目的としてコンディショニングを行っていることを認識する。スポーツ現場において、科学的観点から実践あるいは指導できるように知識を習得することを目的とする。	コンディショニングの目的、要素を理解し、競技者が最高のパフォーマンスを発揮するためのトレーニング計画の立案とコンディショニングに関するアドバイスができるようになる。スポーツ外傷・障害予防のためのコンディショニングの必要性を説明できるようになる。健康増進のためのコンディショニングの必要性を説明できるようになる。	○	◎	○			○	○			○
18UHSA2607	コンディショニング指導演習Ⅰ	2	コンディショニングの概念と目的を理解し、また、その要素と評価法を習得することで、多様なスポーツ現場でその時々求められる目的にあったコンディショニングの実際に触れ、スポーツ現場に対応できる能力を身につける。	コンディショニングの目的を理解できるようになる。コンディショニングの要素を理解し、スポーツ現場にその知識を還元できるようになる。コンディショニング評価の必要性を理解し、また、その評価方法を学び、評価を実践できるようになる。コンディショニングに必要な各種技術（テーピング、ストレッチ等）を学び、実践できるようになる。	○	○		○	○	◎	○			○
18UHSA2402	コンディショニング実習	2	コンディショニングの基本概念と理論的側面を学んだ上で、スポーツ現場で特に有用な、ストレッチング、スポーツマッサージ、テーピングの基本技術を、実習を通じて獲得することを目的とする。	ストレッチング、スポーツマッサージ、テーピングの基本技術を獲得する。ストレッチングでは解剖学に基づく筋の起始と停止を理解し、アスリート個々の身体特性を考慮したストレッチを身につける。スポーツマッサージでは、マッサージの各手法によって疲労した筋がどのように変化するかを経験する。テーピングでは特に足関節の内反捻挫予防のテーピングをシワなく巻ける技術を身につける。以上はいずれも現場でのコンディショニングに役立つ基本技術である。	○	○		◎	○	○	○			○
18UHSA2019	体力の測定評価演習	2	体力の構造や各体力要素の測定方法の基本について理解し、実際に測定ができる能力を涵養する。また、得られた測定結果を適切に評価し、それに基づいた運動処方やスポーツ指導ができる能力を身につける。	1. 形態測定の原理や方法を理解し、実際の測定ができる。 2. 有酸素性および無酸素性能力の指標と測定方法を理解し、実践できる。 3. 新体力テストと体力要素との関わりを理解し、実際に測定や評価ができる。 4. 基礎統計を理解してデータを評価し、それに基づいた運動指導を行うことができる。	○	○		○	○	◎	○			○
18UHSA3104	スポーツ心理学実験	3	スポーツ場面で見られる様々な行動や動作は人の意思や意識、また、無意識の中の深層心理などが深く関わっており、影響を及ぼしている。本科目では、これらの身体活動と心の働きとの関係について、実験や各種心理テストから明らかにし、パフォーマンス向上に関する知識を習得することが目的である。	実験実習を中心にした生理心理学的立場からスポーツ分野における身体活動と心の働きの変化を科学的に解明し、理解する。これらから、メンタルマネジメント（リラクゼーショントレーニング・イメージトレーニングなど）について学習し、メンタルスキルの向上を図る手法を修得する。獲得した知識・技能・方法をコーチングに活用し、指導者として生徒のメンタルスキル向上に貢献できる資質を身につけることが目標である。	○	○		○	○	◎	○			○
18UHSA3105	運動生理学実験	3	人の健康の維持・増進やスポーツのパフォーマンスの向上には、人の行動体力を把握することにより、適切な運動処方としてのトレーニングプログラムが作成できるものである。そこで本講ではその各種の行動体力測定方法について学習することを目的とする。	行動体力の測定・評価を学習することは、幅広い年齢層あるいは性差を含めて運動処方トレーニングプログラム作成に貴重なデータを提供するものである。従って各種測定方法の基礎的技術の獲得を目標とする。	○	○		○	○	◎	○			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
18UHSA3106	バイオメカニクス実験	3	スポーツにおける動きの巧みさを科学的にとらえ、運動の仕組みを理解する方法を学修していく。歩行運動をはじめとし各種スポーツ動作について、バイオメカニクス手法を用いた実験を実施し、そのデータを分析することで、それぞれのスポーツ技術の構造を把握しパフォーマンスを向上させるための要因を理解できるよう進めていきたい。	バイオメカニクス実験で使用するハイスピードカメラ、筋電図、床反力などの機器操作や映像分析や筋電図解析の専門PCソフト操作に習熟することを目標とする。	○	○				○	○	◎	○		○	
18UHSA3107	専門英語 A	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
18UHSA3108	専門英語 B	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
18UHSA3109	専門英語 C	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
18UHSA3110	専門英語 D	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学(英語)力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○	
18UHSA3403	コーチング論	3	競技者を育成する高度な知識と効果的、計画的な指導法を学習する。また、継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦させることは当然ではあるが、大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないようにすること、競技者としての健全な心と身体を培い、人間性を育むためのバランスのとれたマネジメントと指導ができるようにする。	適切な指導体系、コミュニケーション能力の獲得などにより、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促すとともに、心理面についての科学的知見、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面での問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。		○	○			○	○	◎			○	
18UHSA3111	健康・スポーツカウンセリング	3	人間の家庭・学校、社会的側面から、多様な性格、行動パターンについて理解させ、豊かな人格をつくり上げていく過程を系統的に学習する。	心の健康について理解し自己コントロール能力を修得する。	◎	○				○	○					○
18UHSA3501	生活習慣病論	3	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の役割を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。さらに安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の意義を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。また指導者として、安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。健康について病気、健康、体力の各面から、健康を成立させる因子、阻害する因子を理解する。メタボリック症候群などの生活習慣病を具体的に学ぶ。さらに、健康の維持・増進に必要な方法について健康と運動の関係を中心に具体的に学ぶ。	◎	○				○	○	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA3502	運動処方	3	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や性差を理解した上で、多くの対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。	スポーツマンの体力向上や健康の維持・増進のために実践するトレーニングや身体活動は、年齢、性差、運動経験、体力レベルの違いにより、その処方の内容を考慮しなければならない。そこで各種トレーニングや身体活動を理解し適切な運動処方がプログラムできる知識と能力を習得することを目標とする。	○	◎	○		○	○	○			○
18UHSA3503	フィットネス指導法	3	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動の継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要な解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA3504	介護法・介護予防演習	3	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護の知識は将来役立つ知識であり、家族の為にもなる。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
18UHSA4505	運動療法演習	4	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学び、運動プログラムの作成と管理を学ぶ。運動負荷方法を学ぶ。	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学びメタボ健診などができるようになる。運動プログラムの作成と管理を学び、運動負荷方法を学んで運動指導のための基礎知識を得る。心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解する。メディカルチェックや健康診断結果の解釈。服薬患者の運動プログラム作成上の注意点を理解する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
18UHSA4506	健康行動科学・演習	4	健康を行動の側面から理解し、人の健康に関する行動の変容と維持について、筋道を通して考える知識を身につける。また、望ましい健康行動を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	健康行動の変容と維持に関する行動科学の理論・モデルを理解し、その理論・モデルを応用した健康行動変容プログラムの作成方法の修得を目標とする。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
18UHSA4507	健康・スポーツ実践実習	4	指導現場における健康・体力づくりやスポーツの指導は単に技術指導だけでなく、諸問題が伴うものである。学内では解決できない実践的な学習課題を社会に出て実習し、指導現場の実情を把握すること、問題解決の実践力を養うことを目的とする。	少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくためには、単に病気の早期発見や治療にとどまるのではなく、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」を重視すること、生活の質を高めることにより、実り豊かで満足できる生涯づくりを目指す人々を多くすることが重要である。適切な運動プログラムを構成する能力と自ら見本を示せる実演能力を併せ持った健康運動指導者をひとりでも多く輩出する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
18UHSA3701	レクリエーション論	3	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。	コミュニケーション・ワークの援助を中心としたレクリエーション指導ができるよう、科目目的に記載したレクリエーションに関する理論の基礎を理解する。	○	◎			○	○	○			○
18UHSA3702	レクリエーション指導法演習	3	参加者が気持ちよく参加できるよう支援者としての対応の仕方や表現力を身につけるため、コミュニケーション・ワークの技法を学ぶ。	参加者の意欲を引き出し、「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちを引き起こす方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA4703	レクリエーション指導法実習	4	多様なレクリエーション活動・種目があることを理解し、他人に指導できるよう学習する。	活動のねらい・ルールを理解し、技術を身につける。それと同時に、活動・種目の内容を理解し、提供する（指導する）ことができるよう学習する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA3112	障がい者スポーツ論Ⅰ	3	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者のスポーツ振興に必要な基本的内容を理解し、身近な障がい者のスポーツ活動を支援できる能力を身につけることを目的とする。	障害についての基本的な知識を身につけることができる。障がい者のスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を理解することができる。障がい者の生活、障がい者のスポーツ活動を通して、社会のあり方について考えることができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。	○	◎			○	○	○		○	
18UHSA4801	障がい者スポーツ論Ⅱ	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では各種障害を理解すること、また、障がい者へのスポーツの指導法を理解することを目的とする。	各種障害についての知識を身につけることができる。	○	◎			○	○	○		○	
18UHSA4802	障がい者スポーツ指導法	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者が日頃親しんでいるスポーツ・レクリエーションを実践し、その指導の要点を理解することを目的とする。	車椅子バスケットボールなど、障がい者の親しんでいるスポーツのルールや指導の留意点を理解することができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。スポーツ指導における「工夫すること」の重要性を考えることができる。	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA3608	コンディショニング指導演習Ⅱ	3	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際を学び、競技種目特性およびコンディションに応じたプログラム作成と指導能力を習得する。	コンディショニング指導計画を立てることができるようになる。コンディショニングトレーニングを正しく行うことができるようになる。コンディショニングトレーニングを安全に配慮して正しく指導ができるようになる。	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○
18UHSA4609	スポーツトレーニングの科学Ⅱ	4	スポーツトレーニングの実践上の諸問題を科学的に探求する。スポーツトレーニングの科学Ⅰの学習内容を踏まえ、長期的トレーニング計画から日々のトレーニングセッションに至るまでの理論的基礎を学ぶと共に、トレーニング課題に対する実践的な解決の方法や新たなトレーニング方法の創意工夫、応用的なトレーニング計画の原理と方法を修得する。	トレーニング指導をする立場で実践的に役立てることのできるまでの理解を深め、現場で起こる事象に対応したより良いトレーニング方法の立案ができる知識・知恵を修得することを目指す。	○	◎	○		○	◎	○		○	
18UHSA3610	検査・測定評価実習Ⅰ	3	アスレティックトレーナーがトレーニングあるいはコンディショニングプログラムを作成する際に選手に関する情報収集として行う「評価」の概念およびそのプロセスを学ぶ。また、「評価」に必要な各種検査手法について、その目的と意義および技術について実習形式で学習する。	安全かつ的確に外傷を評価するための評価のプロセスを理解すること。評価に必要な検査測定項目を理解すること。評価に必要な機器や道具の使用目的を理解すること。体表解剖による体の仕組みと名称を理解すること（骨格筋および骨を中心に）。各種検査法の実習とその技術を獲得すること。評価結果を解釈し、運動機能に関する問題点を抽出できるようになること。評価結果に基づくアスレティックリハビリテーション、コンディショニングの目標設定ができるようになること。評価結果から抽出した問題点に基づいて、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングプログラムの内容を検討できるようになること。	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA1020	スイミング	1	<p>スイミングでは、基礎の泳法を修得することで、記録の向上や競争の楽しさを味わい効率的な泳ぎを身につけられるようにする。さらに授業実践を通じて安全管理についても学習することを目的とする。</p> <p>本科目は、中高教科保健体育におけるスイミング分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>スイミングでは、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4泳法の基礎技術と各泳法のスタート、ターンを修得し、100m個人メドレーを完泳することを目標とする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA1021	トラックアンドフィールド	1	<p>受講生が、記録測定の正しい方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。</p> <p>本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>本授業の到達目標は以下の3点とする。</p> <p>(1) 受講生自身が教育現場で見本をみせられるよう、各種目の基本および効率の良い動きを身につけることができるようにする。</p> <p>(2) 陸上競技のルールやマナーを理解し記録測定を正確に実施できるようにする。</p> <p>(3) 陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、安全性に配慮できるようにする。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA1022	体操	1	<p>体操は徒手体操をはじめ体づくりや動きづくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動である。また、学習指導要領の体ほぐしの運動と体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができない動きの習得を目指し、授業では身体の基本的操作と創作能力や実践能力を養う。</p> <p>本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>指導者として師範できるストレッチ、ラジオ体操第一および第二、異操作等を習得する。また、体づくり運動で実施される種々の動きを実践し習得する。獲得した知識・技能・態度を、指導者として生徒の健康・維持増進に貢献できる資質に身につけることが目標である。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を該当の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA2023	器械運動	2	<p>1. 学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。</p> <p>2. 学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。</p> <p>3. 運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。</p> <p>本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p>	<p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。また、学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演技ができるようになる。また、段階指導法を学ぶことで、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わうことでスポーツの楽しさや価値を体感する。</p>	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA2024	バレーボール	2	6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA1025	バスケットボール	1	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 ＜知識・理解＞ バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解 ＜技能＞ バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法とゲームの運営法 初心者への指導法 ＜態度・志向性＞ チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し ＜総合的な学習経験と創造的思考力＞ グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSA2026	ハンドボール	2	ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるハンドボール分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス・シュートの技術（主にジャンプシュート） 1対1の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防御におけるグループ戦術およびチーム戦術 「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSA3113	柔道	3	本科目は、中高教科保健体育における柔道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA2027	剣道	2	本科目は、中高教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	日本独自の伝統文化である剣道を正しくとらえ、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、対人的技能の向上を図ると共に、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。 また、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA1028	ダンス I	1	学習過程では個性の育成や仲間との活動を通して仲間とのコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムにのって全身で踊る楽しさを通し自己表現法の技能の獲得を目指す。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	各自が「現代のリズムのダンス」を自分の言葉で説明できるようにする。 「踊る喜び」を自分のからだで他に伝えることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSA1204	ダンス II	1	ダンスは身体的、情緒的、知的に自己表現ができる身体によるボディランゲージである。そのため個の創造的な能力や仲間とのパーソナリティ開発を深めその教育的価値についても理解する。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	テーマ（課題）からイメージする動きを身体で表現する能力（スキルや表現力）等を個人レベルで獲得することを目指す。グループワークでは、作品を作り上げていく活動の中で、自己能力の思考開示や他者への理解を深め、互いの能力を認め合い、問題解決まで協調・協力し努力していく態度を養う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSA2205	ダンス III	2	コンテンポラリーダンスは多様な音楽を使い、独創性の高いジャンルである。個人技能の獲得と身体コミュニケーション能力を高める。 本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ダンス技術の向上と作品創作の為の基礎的知識を学び取る。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSA4206	卓球	4	生涯スポーツのひとつとして国民に広く親しまれている卓球の特性と魅力にふれ、生涯にわたって、地域や職域等において家族や友人などとともに卓球を楽しむことのできる基礎的な技能や初歩的なゲームのできる能力の習得をねらいとする。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	卓球の基礎的技術を習得し、楽しく試合ができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA4207	バドミントン	4	基本的な練習を通して、個人の技能を高め、仲間と協力して授業を形づくっていくことで、自ら主体的に行動し、そして協調性豊かな学生と成長していくことを期待したい。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	バドミントンの基礎的技術を習得すると共に、楽しくゲームができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA2508	エアロビックダンス	2	健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックダンス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	エアロビックダンスにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA3509	アクアエクササイズ	3	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA1901	海外の健康・スポーツの研究	1	国際化が進むなかで海外での生活体験を通じ国際理解を深めると共に健康・スポーツ指導者としての自覚を高め真の国際人の育成を目的とする。	海外の文化に触れ生活様式を経験することで国際的知識を身につけ、外国語の語学力を高めることに努める。	○	○			○	○				◎	
18UHSA1902	マリンスポーツ実習	1	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
18UHSA2903	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	(1) 自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。 (2) キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動（アクティビティ）を通して自分の体力や精神力を鍛える。 (3) 将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、計画立案することができ、運営指導ができる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	
18UHSA2904	スノースポーツ実習	2	1. スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 2. 自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な計画立案・運営指導の能力を身につける。 3. 団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得 (2) 生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得 (3) 自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得 (4) スキー実習の実施に必要な計画立案・運営指導能力の修得 (5) 団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
18UHSA3114	健康・スポーツ科学の統計学演習	3	健康・スポーツ科学に関する卒業論文の作成のために、実験や調査で得られるデータを正しく分析・解釈できる実践的な能力を身につける。また、データが語りかけているものを感じとる能力の洗練を目指す。	統計学的基礎知識および健康・スポーツ分野における統計学の活用方法の理解、エクセル統計の基本操作およびアンケート調査のデータ処理方法の習得を目標とする。	○	○														
18UHSA2029	2 年 次 演 習	2	健康・スポーツの基礎から、その発展段階として、スポーツ教育領域、スポーツ科学領域、健康運動科学領域におけるそれぞれの研究方法と特徴を学び研究すべき方向付けをすることを目的とする。	健康・スポーツ科学に関わる諸研究の着眼点や研究アプローチを学び、3年次より選択すべきコース、ゼミにつなげられるようにすることを目標とする。	○	○				○	○	○							◎	
18UHSA3115	健康・スポーツ科学演習	3	健康・スポーツ科学に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、体系的な認識を持ち、そのことを通した問題を設定し、その解決のための方法論を身につけることを目的とする。	自分の所属するゼミにおいて、健康・スポーツ科学に関わる問題発見、問題提起、問題解決の方法を学び、4年次に行われる卒業研究への導入を目標とする。また、4年次においては、研究論文、実践研究、教材研究発表という形式で、その研究成果を発表するため、具体的なテーマ、研究方法等について絞り込むことを目標とする。	○	○				○	○	○							◎	
18UHSA4116	卒 業 研 究	4	3年次に学んだ健康・スポーツ科学の専門領域にふさわしい手法を使って、卒業論文、実践研究、教材研究から、それぞれの完成形である論文発表、研究発表に導く能力を身につけることを目的とする。	自分が専門とする研究分野におけるテーマを設定し、そのテーマに基づく研究を進め、成果物の提出を行い、発表会にて研究発表することを目標とする。	○	○				○	○	○								◎
18UHSB3101	保健の授業研究	3	中高保健体育科教員として必要な資質・能力を習得することを目的とする。中学校高校の保健分野の目的・内容・方法について学ぶ。	中高の保健分野の目的・内容・方法について説明することができる。	○	○	○	○	○	◎	○									○
18UHSB3102	保健体育科教材演習Ⅰ	3	中高保健体育科教員として必要な資質・能力を修得することを目的とする。具体的には「保健」の授業における教材を作成するとともに、教材を活用した指導実践について学ぶ。	「保健体育」の各領域の特性についての理解を深め、学校現場での指導実践における教材の作成方法や活用方法について、模擬授業を通して学ぶことを目標とする。	○	○				○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSB4103	保健体育科教材演習Ⅱ	4	中高保健体育科教員として必要な資質・能力を修得することを目的とする。具体的には「体育」の授業における教材を作成するとともに、教材を活用した指導実践について学ぶ。	「体育」の各種目の特性についての理解を深め、学校現場での指導実践における教材の作成方法や活用方法について、模擬授業を通して学ぶことを目標とする。	○	○				○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
18UHSB4104	教科外体育論	4	中高保健体育科教員として必要な資質・能力を習得することを目的とする。運動部活動・各種スポーツ大会・運動会（体育祭）など、学校で展開される教科以外の体育・スポーツ活動について学ぶ。	運動部活動・各種スポーツ大会・運動会それぞれの教育目的・内容・方法を説明することができる。 教科体育と教科外体育の区別と連関について説明することができる。	○	○				○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
18UHSC3101	パフォーマンス向上論	3	競技者として自身のパフォーマンスを科学的なエビデンスに基づき、見直し向上させるために必要な資質・能力を修得することを目的とする。	個人および団体の各競技の特性についても理解を深め、パフォーマンスを向上させるための様々な分野で確立されているエビデンスを修得していくことを目標とする。	○	○	○				○	◎	○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA4209	教 職 概 論	4	1. 「教育は人なり」と言われるように、「教師が変われば生徒も変わる」ことの意味を考える。 2. 学校教育と教職の意義について理解を深める。 3. 現在の教師に求められている教職実践力のうち、特に授業力や学級経営、生徒指導等の実践力を修得する。 4. 上記目的を踏まえ、教職論の視点から、全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力について、総合的に高める。 ①学習指導、学級経営や、今日的な教育課題の解決方法等について、専門的な知識および解決のための技能を修得する。 ②学生は主体的・協同的に本授業に取り組み、中高生に身につけさせたい学びの姿勢を自ら協同体験し、修得する。	○	○	○		○	◎	○			○	
18UHSA1210	教 育 原 理	1	1. 中学校・高校教諭または栄養教諭に必要な教育の基礎的理論について、以下の諸点から講じる。 (1) 人間学・教育学 (2) 教育の意義・目的・理念・歴史・未来 (3) 人間形成と家庭・地域・社会との関係 (4) 教育実践の理論と実際 2. 学生の主体的学びを喚起する。 3. 上記の目的を踏まえ、人間学・教育学の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより教職実践力の基礎を構成する教育の原理について理解力を高める。 ①教育的営みの意義・目的等を理解している。 ②子どもの成長発達に関わる教育者の役割について、歴史的経緯を踏まえて理解している。 ③人間形成と家庭・地域・社会の関係性を理解している。 ④教育実践の理論と実際の関連性を理解している。 ⑤現代教育の課題を把握し、解決策を探求することができる。 ⑥教育について主体的に学び続ける姿勢を身につけている。	○	○	○		○	◎	○			○	
18UHSA1211	人権教育の理論と方法	1	1. 国際化、情報化、科学技術の進展など、急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちとともに新しい人権文化を育むことが教員に課せられていることを認識する。 2. そこで現代に適合した人権教育のあり方を探求し、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成について考察を深める。 3. 上記目的を踏まえ、人権教育の視点より全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する人権教育への理解力を高める。 ①人権に関する諸問題が生じる要因について科学的に認識するとともに、その解決に向けての教育実践を構想できる教職の専門性を身につける。 ②また学習過程を通じて、自ら課題を見出し、人権教育の教育課程を自主編成できる能力を身につける。	○	○	○		○	○	◎			○	
18UHSA2212	教 育 史	2	1. 西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。 2. 教育思想の現代的意義を探究する力を育成する。 3. 現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。 4. 上記目的を踏まえ、教育史の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力の基礎を構成する教育理念の歴史的理解力を高める。 ①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。 ②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。 ③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。	◎	○	○		○	○	○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
18UHSA1213	教育心理学	1	1. 中高教諭または栄養教諭として必要な基礎的な知識・技能について、心理学の視点から学ぶ。 2. 教育心理学の基礎知識や技能を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のプロセスへの理解を深める。 3. 上記目的を踏まえ、教育心理学の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより教職実践力を構成する心理学的人間理解力を高める。 ①教育心理学の基礎について正しい知識を身につけ、他者に説明できる程度に理解を深める。 ②学習者である幼児・児童・生徒の発達と学習について、講義を通じて学んだ教育心理学の基礎知識を活用して考え、探究する。	◎	○	○		○	○	○			○	
18UHSA2214	発達心理学	2	1. 人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。 2. 特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。 3. 上記目的を踏まえ、発達心理学の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより教職実践力を構成する生徒の発達について理解力を高める。 ①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。 ②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。	◎	○	○		○	○	○			○	
18UHSA2215	障害児の発達と教育	2	1. インクルーシブ教育の実現を目指す中で、今後多様な障害を有する幼児児童生徒が、特別支援学校だけでなく通常の学校園に在籍する傾向にあることを認識する。 2. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められていることの現状と背景について講じる。 3. 各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解し、インクルーシブ教育の具体化を模索する。 4. 上記目的を踏まえ、特別支援教育の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する特別な配慮を要する生徒への理解力を高める。 ①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。 ②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。 ③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。 ④障害児を育てる保護者や兄弟の心情に迫る。 ⑤インクルーシブ教育を推進する中で、「交流および共同学習」を推進することの意義を知る。 ⑥障害児者が置かれている社会的状況を知る。 ⑦事例をもとに指導方法を考えることができる。	○	◎	○		○	○	○			○	
18UHSA3216	教育行政学	3	1. 中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。 2. 現代の公教育制度を運営・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。 3. 上記目的を踏まえ、教育行政学の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力の前提を構成する公教育への理解力を高める。 ①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。 ②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的知識を得る。 ③本授業全体を通して、教職を志す者同士で学級経営力に要する「ともに学びあう力」を修得し実際に高めあうことができる。 ④教職実践力を構成する公教育制度への理解について、基礎的知識を修得する。	◎	○	○		○	○	○			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA2222	保健体育科指導法Ⅳ	2	<p>1. 学校体育で取り扱われる「陸上競技」領域について理解する。</p> <p>2. 陸上競技の走・跳・投の技能を習熟し、技能の特性に基づいた練習法を理解する。</p> <p>3. 陸上競技の観察眼を養い、生徒の発達段階に応じた効果的指導法を修得する。</p> <p>4. 上記目的を踏まえ、保健体育教育学の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。</p>	<p>学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する教科指導力・授業実践力を高める。</p> <p>陸上競技の領域の保健体育科学習指導案を立案し、指導実践できる力を養う。各種目の特性の理解を深め指導方法を学ぶと共に、自己の実技能力向上を目指し、十分な示範能力を身につけることが重要である。</p> <p>(1) 屋外で行う授業における指導上の留意点について学習する。</p> <p>(2) 陸上競技の指導案の作成について指導案の作成方法と各種目の指導のポイントを理解する。指導種目を決定する。</p> <p>(3) 指導目標の設定と内容の構成(ポイント)基礎的な内容を充実させ、受講者が興味を持ち意欲的に実技をできるような内容であること。</p> <p>いかに受講者が授業に集中できるかという態度教育も必要である。また安全性を考慮し、かつ自らも実技の見本ができるように努める。受講者の能力に差異があるが、すべての受講者の満足感が得られるような内容と目標を設定すること。</p> <p>ア. トラック種目(短距離走、ハードル走、リレー)の技術研究と指導 どうしたら速く走ることができるか、また意欲を持って走れるかということに着目すること。</p> <p>ハードル走は能力の差異が顕著に現れる種目である。受講者の満足感が得られるように工夫すること。</p> <p>リレーに関しては集団で行う種目として、チームワークや協力姿勢が必要であることに着目すること。</p> <p>イ. 跳躍種目(走高跳、走幅跳)の技術研究と指導 助走、踏み切り、空中動作に着目し工夫すること。フォームの適性について説明できること。</p> <p>ウ. 投擲種目(砲丸投)の技術研究と指導 安全性を重視した内容であること。押し出すフォームの説明と見本ができること。</p> <p>エ. 陸上競技各種目の力学的特性の理解 用具の特性を踏まえ、時間、距離、高さを競う種目の違いや面白さ、身体の使い方の共通点と相違点を理解する。</p> <p>オ. 陸上競技各種目に必要とされる運動能力の要因の研究 体力的要素や体型の違う特徴が各種目に含まれていることを理解する。</p> <p>カ. 陸上競技各種目の競技規則の解説と審判規則の変遷や審判法について理解する。</p>	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
18UHSA2223	保健体育科指導法Ⅴ	2	<p>1. 中高保健体育教諭に必要なスイミング教科指導の資質能力を修得する。</p> <p>2. スイミング授業の実習形式で実践指導を行う。</p> <p>3. 学習指導段階での運動課題の設定や方法、また学習過程における指導方法を自ら学修する。</p> <p>4. 上記2・3により、スイミング指導に関する実践的な能力や態度を身につける。</p> <p>5. 上記目的を踏まえ、保健体育教育学の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。</p>	<p>学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する授業力および指導力を高める。</p> <p>①スイミングの授業の実践方法を、実習形式で学ぶ。</p> <p>②中高生への学習指導における運動課題の設定方法や指導方法を自ら修得する。</p> <p>③スイミング指導に際しての実践力および態度を学ぶ。</p>	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA4229	教育方法の理論と実践	4	<p>1. 中高教育を中心に、教育方法学の概要を学ぶ。</p> <p>2. 特に、教授＝学習に焦点を当て理論と実践の乖離を克服し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識について講じる。</p> <p>3. 教育方法学の領域は、(1) 授業の技術的原理に関する問題だけではなく、(2) 教室における子どもの学習の経験の問題、(3) カリキュラム構成と評価に関する問題、(4) 教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、(5) 教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを知る。</p> <p>4. 上記目的を踏まえ、教育方法学の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。</p>	<p>学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力の基礎を構成する教育方法に関する知識と技能を修得する。</p> <p>①教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の状況を概観し、教育方法の問題や課題を知る。</p> <p>②その上で、より豊かな教育観、授業観を探究する。</p> <p>③授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連づけて説明することができる。</p>	○	○	○		○	○	◎		○	
18UHSA3230	総合学習の理論と実践	3	<p>1. 「総合的な学習の時間」の創設の趣旨・目標や内容等について理解を深める。</p> <p>2. 学習指導要領の改革動向を把握し、その基本理念が「生きる力」の育成にあることを学ぶ。</p> <p>3. 「求める能力」として、生徒の主体性・思考力・判断力・表現力の育成またコミュニケーション力が示されていることを理解する。</p> <p>4. 「総合的な学習の時間」の学習計画を作成し、具体的な学習活動の実践方法を探究する。</p> <p>5. 上記目的を踏まえ、「総合的な学習の時間」の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。</p>	<p>学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する「総合的な学習の時間」の実践力を高める。</p> <p>①「総合的な学習の時間」の創設趣旨・目標・指導内容等に係る専門的知識および指導技能を修得する。</p> <p>②学生自身が、本授業に主体的、協同的に取り組むことで、「総合的な学習の時間」自体を通して中高生に身につけさせたい学びの姿勢を自ら協同体験し、修得する。</p>	○	○	○		○	○	◎		○	
18UHSA2231	道徳教育指導論	2	<p>1. 学校教育活動全体の中で、意図的・無意識的に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を形成していることを知る。</p> <p>2. その過程で、自らを律しつつ、人間として円満に成長する「あゆみ」について探究し、今後の道徳教育のあり方と実践方法・教材等について探究する。</p> <p>3. 上記目的を踏まえ、道徳教育論の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。</p>	<p>学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する道徳指導力を高める。</p> <p>①道徳教育に関する基本的な概念を理解し、食育と道徳の関連を整理する。</p> <p>②「生きる力」を育むことにより、中学生一人ひとりの豊かな心を育て、人生・社会を切り拓く実践的な力の育成を図る。</p> <p>③実際に中学校において道徳を指導する場面を想定し、指導案の作成や教材研究を試みながら「道徳の時間」を担当できる知識と技術を身につける。</p>	○	○	○		○	◎	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
18UHSA1237	特別支援学校参加実習	1	1. 中高教職課程履修者を対象に、多様な特別支援教育の実際に触れ、教職につき体験的に学ぶ機会とする。 2. 特別支援学校で、障害のある幼児・児童・生徒が、担当教員の指導・助言・援助を得て自立への意欲・態度を育てている姿から多くのことを学ぶ。 3. 上記目的を踏まえ、特別支援教育の実地体験から、全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する幼児児童生徒への教育愛および人間的理解力を高める。 ①アシスタントティーチャーとして特別支援学校の教育活動を体験する。 ②特別支援教育の実践や特別な配慮を要する子どもへの関わり方などについて理解を深める。 ③教職を志す自己の課題に気づき、探求方法を学ぶ。	○	○	○		○	○	◎	○	○	○
18UHSA4238	教職実践演習(中高)	4	1. 中学校または高等学校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。 2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。 3. 中学校または高等学校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 4. 上記目的を踏まえ、中学校または高等学校教職課程の総まとめとして、全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、大学4年間の学習(教育実習含む)や課外のボランティア活動などを通して身につけた資質能力が、中学校または高等学校の教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを確認し、補うべき項目について補完指導を受ける。 ①中学校および高等学校の教員として、高い教職倫理観を有し、生徒に対する臨床的理解力に支えられた教育愛を發揮することができる。 ②職場(生徒・同僚等)のみならず、地域社会の人々(保護者や校区住民等)とも友好的関係を保持し、教員として信頼される対人関係を構築することができる。 ③生徒をその学校・家庭・地域社会における日常生活を通して、臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。 ④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。 ⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。 ⑥学院教育理念に立脚した全人の教職実践力を体系的に修得している。	○	○	○		○	○	○		○	◎
18UHSA3117	健康科学Ⅱ	3	健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために3学科がそれぞれの専門分野の特性を提供し、3学科の学生が共同で健康科学に取り組み、知識を深めることを目的とする。	3学科の学生が共同で一つの課題を演習方式で研究を深め、健康への取り組みの多様性と他分野との連携の重要性に気付くことを目標にする。	○	◎				○			○	
18UHSA1030	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	1. 日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 2. ライフイベント(出産、育児、介護)と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 3. グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 4. 将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。							○	○	◎	○
18UHSA1031	生命科学与倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	①科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 ②哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ③発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。						○			◎	○

